



## 体験がつながって、広がって…

花組 尾川

種から育てた二十日大根は大きく育ち、先週3回目の収穫をしました。葉っぱの大きさや土から少し見えている赤い部分を見て、「これは大きいと思う」「一番大きいのはどれ？」と期待を寄せて抜く子どもたち。1回目収穫した時よりも大きな二十日大根が採れ、嬉しそうに「やったー!」「大きい!」と喜ぶ姿や「これ前よりも大きくなるとるやん」とつぶやく姿も。収穫した二十日大根は、副園長先生が美味しいスープにしてくれました。1回目の時は食べなかったAくんやBちゃんがすぐにスープを手に取り食べました。「美味しい♡」「緑のところも美味しい」とパクパクと食べる姿がありました。そして、それに続くように「やっぱ食べれないかも…」と言っていたCちゃんも自分からスープを飲みました。それを見てDちゃんが「すごいね!」と拍手👏自分達で育て収穫した二十日大根は、きっと子どもにとって、特別だったのだと思います。また、子どもたちの体験がつながり、1回だけではなく2回3回と収穫を楽しみ、みんなで「美味しいね」「これAくんが採ったやつかも…」と思いを共有しながら食べたことで、野菜が苦手な子どもも「今日は食べてみようかな」と心が動き、自分で口にしてみようと行動したのではないかと思います。何よりも子どもが「みんなでお世話したから、美味しんだよね」と言っていた言葉が嬉しく、みんなで育てみんなで食べることの良さを改めて実感した瞬間でもありました。

二十日大根を抜いた体験は、子どもたちの遊びにもつな

がり、Eくんが「うんとこしょ!がしたい」と言ったことをきっかけに即興劇『大きな二十日大根』が始まりました。おじいさん役の保育者が「この大根は抜けないぞ、おばあさん」と呼ぶと、Eくんが小さな声で「ジバニヤン!」と訂正を。「ジバニヤン」と保育者が呼ぶと、「どうしたんだニヤ?」とやってきます。「うんとこしょどっこいしょ!」と2人で引っ張りますが、抜けません。Bちゃんが「私はネコだよ。」と手伝いに…そこからは長い長いストーリーの始まりです。クラスみんなが思い思いの役になって手伝いに来ました。引いている最中にも「もう一回私を呼んで!次はプリキュアになるから」と2役する子どもも。全員揃って「うんとこしょどっこいしょ!」と力を合わせると大きな二十日大根が抜けました。

抜けた二十日大根は、お母さん役の子どもがスープにしてくれてみんなで食べました。

子どもたちの今までの体験がいろいろなところでつながって、子どもたちの遊びやイメージを広げていることを感じました。自分のなりたい役になって、衣装や耳を身につけたり、友達と一緒にだからやってみようと思えたり、楽しいことが始まると自然と友達の遊びに「入れて」と入り遊び出す姿に成長を感じました。今後これらの体験がつながり、さらにそれぞれの遊びが広がって、もっと楽しいことに出会うのでしょうか♪



うんとこしょ!どっこいしょ!

## もうこんなに ほしぐみパワーがたまった!!

風組 中原

先日、ついに風組も農場に行ってきました。「いつも、星組さんが行っている農場」と思うだけで、心も体も弾む風組さん。農場で見るものやレンジャーさんが話すことの全てが新鮮で、ワクワク、ドキドキが止まらない時間であったという間に幼稚園に戻る時間になりました。幼稚園に戻ってお弁当を食べているときの「私初めてバスに乗った!ほんとよ!」「星組になったら、毎日農場に行きたいね」という会話やキラキラした表情が印象的でした。また、昨日と同じはずの子どもたちの姿が、心なしか大きくなったように見え、忘れられない一日になりました。

農場に行った日から、「次は自分たちが星組になるんだ」という思いがますます膨らみ始めた風組さん。さっそく、以前から話していた星組さんとのお別れ会の準備に取り掛かります。お別れのプレゼントに、附属幼稚園年中伝統の鉛筆立てをつくりました。普段使っている粘土とは違って、なかなか固い紙粘土に苦戦しながらも形にして、色とりど

りのビーズで飾ります。「〇〇くんは、ハートは好きじゃないと思う」「紫が好きなんじゃない?」「えっ!それなら私と一緒にじゃん」と話をしながらつくること一時間。風組さんが、少し硬い粘土に負けないで自分でやってみようとする根気強さや、会話を楽しんだり星組さんのことを思ったりしながら、長時間集中してプレゼントをつくる姿に、農場に行った日に、子どもたちが大きくなったような気がしたのは間違いではなかったのだと実感しました。この日の帰りに、「今日みんなを見て、風組さん大きくなったなって思ったよ」と伝えると、「じゃあ、もう星組?」とAくん。保育者が「ほとんど星組みたいに見えるけど、まだ風組だな。星組になる力が、毎日少しずつ溜まって行って、足のところから頭の上まで全部溜まったら星組かな!」と言うと「僕はもうこの辺(自分の胸のところに手を当てて)」「僕は、もうこんなに(自分の鼻のところに指して)星組パワーが溜まった!!」と、見せ合う風組さんでした。



## 星組みんなで!“いろいろ博物館・お店屋さん”ついにオープン☆

星組1 田中 ・ 星組2 中野

3月に入り、卒業まで残り僅かとなりました。子どもたちは、卒業に向けての活動や行事など忙しくも充実した日々を過ごしています。そんな中、先日ついにオープンを迎えた星組の“いろいろ博物館・お店屋さん”。星組1、星組2のみんなで力を合わせて準備をしてきました。その様子をお伝えしたいと思います。

つくることが大好きな星組の子どもたち。新聞紙をまるめたり、ちぎったりしながら形を整え、布ガムテープなどで止めながら好きなキャラクターから戦いごっこのお剣、ボールまで…なんでも必要なものは自分たちでつくって来ました。また、3学期に入って夢中になっているパズルブロックのラキューでは食べ物、動く乗り物や生き物まで様々なものを一つ一つ色やパーツを組み合わせながら想像力を膨らませてつくることを楽しんできました。そんな子どもたちのつくった作品がたくさん並び始めた頃、披露したい気持ちの高まりが感じられたので、その機会を提案しました。すると、「星組みんなで開くのはどう?」と声。「ラキューだけじゃなくて、他にも見せたら?」「つくったポケモンも見せたいな」「じゃあ、いろいろ博物館にしようよ」「いいね」とアイデアがどんどん出てきました。「お弁当屋さんも開きたい」「レストランはどうか」「くじ屋さんも」…話し合いの中で出てくる様々なアイデアや思いを整理しながら、見るところ(博物館)食べたり遊んだりするところ(お店屋さん)を星組の部屋を全部使って開くことになりました。準備の中で「案内する人がいるんじゃない?」「スタッフって分かるようにしよう」「地図があったらいいかも」など…あちこちで聞こえてくる「あ、いいこと思い付いた!」の声。ひらめきいっぱいの子供たちにワクワクしながら一緒に準備を進めました。時には困った場面に遭遇しながらも、継続してつくり上げていく楽しさを味わっていました。

いよいよ迎えたオープン当日。朝から慌ただしく、「準備できた?」「あと少し」「こっちは手伝って」と声を掛け合いながら最後の仕上げに取り掛かります。「終わったから手伝うよ」「お願い」「頼んだよ」そんな嬉しい声もチラホラ。準備が整い



星組みんなで集まりました。前日に続いて気合の「エイエイオー!」の掛け声をして一致団結!オープンを呼びかける人、お店の準備の人、案内の人…と分かれてさっそくオープン。花組、風組そして午後からは1年生も招待し、たくさんのお客さんにもう大忙し!の一日でした。「たくさんお客さん来てくれたね」「めっちゃくちゃ忙しかった」「何回も来てくれた人がおったね」「楽しかったってことじゃない?」「卒業までこのままにしたい」など、子どもたちから口々に声上がり、大興奮の様子。もう嬉しくて仕方がない、そんな気持ちの高まりが感じられました。「大成功!」とみんなで喜び合い、満足感や充実感でいっぱいの子供たちでした。

“いろいろ博物館・お店屋さんをオープンしたい”という共通の目的に向かい、子どもたち同士で相談し合い、協力して進める姿にクラスを超えて仲間意識がさらに高まったことを感じました。これまで、保育者が子どもたちの気付きに共感したり、周囲の友達に伝える機会を設けたり、一人一人が自分の力を発揮していけるようにと願い、かかわってきました。思いを共有しながら準備をしていく中で、友達よさに気付いたり、自分の得意なことが分かってきたり…遊びの中で互いのよさを感じる姿が随所に見られ、その姿を嬉しく思います。みんなで力を合わせて開いたこと、思いを実現した体験は、子どもたちの中で思い出の一つとなったことでしょう。残り数日となった幼稚園生活。1日1日を大切にしながら、子どもたちとともに過ごしていきたいと思っています。

